

平成10年度(1998年度)事業計画書

「メセナ白書1997」では資金援助額の上昇傾向が確認され、全体的には企業メセナが根付つつあることが今回も示されました。また、助成認定活動への企業からの支援額も95年度 3.1億円、96年度 5.5億円、97年度 8億円(2月現在)と大幅に伸びています。これらのことをあわせ考えますと、企業メセナは各企業の努力によってバブル崩壊後の困難を乗り切り、回復基調になりつつあるとみられました。しかし、97年後半からの大型倒産、金融不安は日本全体に暗い影を落とし、回復しかけた企業メセナの環境に悪い影響を与えるのではないかと懸念されます。

97年度は当協議会の基盤を強化するための具体的改善に取り組みました。主に、

- ①事業費配分の適正化
- ②会員企業によろこばれる活動

に留意した事業展開を図ってまいりました。その結果、「メセナ大賞」の大幅経費削減などでスリム化をはかることが出来ました。また、「メセナ誌」の企業情報ページの充実や「セミナー」の内容一新などで、会員企業に関心のある活動に努めてまいりました。しかし、現在の経済情勢は会員拡大を著しく困難にしていることから、収入増が計画通り図られず、結果としては、より厳しい協議会運営を迫られることになりました。

当協議会の運営は、9割を会費収入で賄っておりますので、この経済情勢では、まだしばらく当協議会にとって厳しい運営を余儀なくされると考えられます。

このような環境の中にあっても、地方におけるメセナ組織は徐々にではありますが活発化しています。97年度は新たに熊本、山梨・長坂、福島・喜多方などにメセナの組織が誕生しました。しかし、これらの組織の経営基盤は弱く、地元で広く知れわたるような活動には至っていないのが殆どで、今後これらの組織の安定した発展をどう図るかが課題です。

95年度に当協議会設立5周年記念「国際メセナ会議95」でアジア版セレックの設立が提起され、96年のソウルでの国際会議で「アジアにおけるメセナ国際交流ネットワーク組織」の設立が決まり、そのための作業委員会がスタートしました。当協議会は韓国やオーストラリアとともに、このネットワーク(ABC A)設立に向けて努力することが要請されています。

あと2年で20世紀も終わり、新たな世紀を迎えるとともに、当協議会も設立10周年となります。98年度は21世紀の企業メセナはどうあるべきか、その方向を探り、それにそった10周年記念事業を実施すべく検討してまいります。

以上のような状況の中で、98年度は次の諸活動を中心に進めてまいります。

①経営基盤の強化

緊縮予算の実施

さらに経費の削減に努力し、会員数の確保に努めます。

新規事業の開始

会員企業のメセナ活動や芸術団体の支援要請活動への協力を事業化してまいります。

評議員、会員との交流の活性化

97年度から実施した「理事・評議員合同会議」の充実を図るとともに、会員との情報交換の場「メセナ情報交流会」を開催してまいります。

②地方メセナの健全な発展に寄与

地方のメセナ組織のネットワーク強化に努めます。

③NPO法案への対応

NPO法案の推移をみながら、NPOと芸術団体や地方メセナ組織との関係を明らかにし、適切な助言等を行なってまいります。

④ABC A設立に協力

⑤21世紀ビジョンの策定

⑥10周年記念事業の立案と準備

具体的には次の事業を行なってまいります。

1. 1998年度収入計画

1.1 会費収入

1998年 4月 1日現在の会員数は正会員172社475口、準会員44社47口となる予定です。

1998年度予算はこの口数を維持することを前提に編成し、会費収入合計額を12,429万円と見込んでおります。

1.2 事業収入

メセナ誌の売上収入 130万円、メセナ誌広告料収入 430万円、セミナー等の参加費収入 5万円、メセナ白書売上収入 130万円のほか、新たにセミナー企画等のコーディネーター料収入として 200万円を見込んで事業費収入計 895万円としました。

1.3 雑収入

受取利息などで、30万円を見込んでおります。

1.4 助成金収入

当協議会を經由して支援する助成金を13,219万円と見込みました。

以上1998年度単年度の収入合計は26,573万円となります。

2. 1998年度事業計画

2.1 啓発・普及事業

2.1.1 メセナセミナー

会員企業のメセナ担当者を対象にしたセミナーです。97年度までは、特徴あるメセナ活動を行なっている企業の担当者に自社の活動をレクチャーして頂き、参加者と意見交換をする「ケーススタディ・シリーズ」と、異動等により初めてメセナ担当者になった方への「メセナ入門編」を開催してまいりました。98年度は会員の意向をより反映させるセミナーとするため、両者を統合した「メセナセミナー」を新たに開催いたします。「メセナセミナー」では、会員の方々にもコーディネーターとしてセミナーの企画に参画していただき、企業メセナの実務に即した情報提供と議論の場としてまいります。98年度は東京3回、関西1回開催します。

2.1.2 アートセミナー

1996年度までの「アートを学ぶ」シリーズに代わり、97年度からは次の3つのシリーズを開催いたしました。98年度は97年度を基本的に踏襲し、内容の充実を図ってまいります。

① フォローセミナー

メセナ誌の連載企画「おすすめ旬アート」で紹介された作品のフォローセミナーです。紹介されたアーティストと執筆者を講師に、作品解説、アートの現状分析、参加者からの素朴な質問に答えていただくもの。98年度は美術、古典芸能の2つのジャンルを開催します。（一般公開）

② アート環境を考える

現在アートがおかれている状況を報告するとともに、民間からの文化政策の

提言などを討議します。アートの振興のために何が必要で、何が出来るのかを考えます。98年度はNPOや海外の芸術事情などをテーマにとりあげる予定。

③アートフィールド視察研修

新しい文化施設を視察したり、話題のワークショップやギャラリートークに参加するなど、アートの現場を実際に訪れ、さまざまな体験をしていただく内容で年3回開催します。

2.1.3 アート・マネジメント講座

来日した海外のアートマネジメントの第一人者を招いた講演会や、国内で活躍しているアートマネージャーの方を講師に企業とのパートナーシップを模索する講座など、芸術と社会を結ぶ人材の育成をめざします。

2.1.4 メセナ・コーディネート

企業や芸術文化関連団体が企画するアートマネジメント講座やフォーラムなどの企画に協力するなど、企業メセナ協議会のノウハウを活用したメセナ・コーディネート事業を啓発・普及事業の一環として98年度より開始いたします。

2.2 情報収集・仲介事業

2.2.1 メセナ誌

97年度は以下の改善を図りました。

(1)見やすい、読みやすいものにしました。

①総ページ数を増やし本文56ページとし、背表紙をつける。

②写真のページを増やす。

③表紙をリニューアルし目立つようにする。

(2)企業情報を増やし、企業に魅力ある内容に努めました。

①メセナ大賞受賞企業のトップインタビュー。

②企業のメセナ情報。

③メセナセミナー報告。

(3)新連載をスタート。

①「おすすめ旬アート」 発行後3カ月間に観るべき展覧会や公演の紹介

②「各地のメセナ組織の紹介」 広がりつつある各地のメセナ関連組織を紹介。

98年度も97年度を踏襲してまいります。

2.3 調査・研究事業

2.3.1 メセナ白書

『メセナ白書1997』では日本の企業メセナの特徴とも云える企業の顕彰・コンクール事業にスポットを当て、企業、アーティスト、市民の立場からこれらの事業についての調査を行いました。98年度版では地域のメセナ活動に焦点を当て、今、徐々に広がりつつある各地のメセナ活動の実態を明らかにし、現状の問題点と今後の課題を考察いたします。

2.4 顕彰事業

2.4.1 メセナ大賞

8回目を迎えるメセナ大賞は広く社会から認められる権威あるものになってまいりました。97年度からは新しい審査委員のもとで、トロフィーもメセナらしく新進彫刻家の作品を採用、メセナ読者賞の新設、自前の贈呈式など、運営方法等に大きな改善を図りました。98年度は多様化する企業メセナに対応した賞を検討してまいります。

2.5 国際交流事業

1995年の「国際メセナ会議'95」で提唱されたアジア版セレックの設立については96年11月に開催された韓国での国際メセナ会議でA B C A (The Asian Business Council for the Arts) 設立のためのワーキンググループ設置が決まり、97年1月にその第1回作業委員会がオーストラリアで、第2回会合は98年2月に東京で開催されました。98年10月のメルボルンでのA B C A発足にむけて、当協議会としては全面的に協力してまいります。

2.6 助成事業

1997年度助成事業のスルー金額は目標の14,024万円を大きく上回る約8億円となる見込みです。この制度を利用するアーティストや団体は増えてきておりますが、まだ全国的には広く知られているとは云えないので、98年度もさらにPR活動に力を入れてまいります。

2.7 地方メセナ組織ネットワーク（中期構想）

地方のメセナ組織については、97年度は熊本、長坂、喜多方などに新たにメセナ組織の誕生をみる事が出来ました。98年度も引き続き各地のメセナ組織結成を支援してまいります。

2.9 21世紀ビジョンの策定

98年度には専門委員会を設置して、21世紀の企業メセナのあるべき姿や当協議会の進むべき方向、役割、事業、経営基盤といったビジョンの策定をしてまいります。

2.10 設立10周年記念事業の立案と準備

21世紀ビジョンをふまえて、10周年記念事業を立案し、その準備に入っております。

2.11 N P O

本年4月に成立が予測されているN P O法案のもとで、今後、芸術団体に対する支援や地方メセナ組織の活動がどのように変化していくか注目しつつ、当協議会の新しい役割について研究してまいります。